

だれにでも さわやかに あいさつかわす 相良っ子

あいさつは、社会生活の基本である。あいさつを交わすことで、お互い親しみを感じ、和やかな雰囲気生まれる。相手の存在を意識し、相手を大切にすることにもつながる。子どもたちが地域の人とあいさつを交わすことは、地域の人を知り、関わることに繋がる。そして、相良村を大切に、ふるさと感が育つことへとつながっていく。幼少時からあいさつを大切にしていきたい。

	ねらい	保育園・学校で		家庭・保護者	地域連携
		具体的姿	指導内容		
保育所	簡単なあいさつができる	【登園時】 「おはようございます」 「さようなら」 「また、あしたね」	・あいさつされたら、あいさつが返せるようにする。	「おはようございます」 「いってきます」 「いただきます」 「ごちそうさま」	身近な人とあいさつを
	自分から簡単なあいさつができる	【幼児同士の会話】 「ありがとう」 「あそぼう」 「ごめんね」	・促されなくても、その場にふさわしいあいさつが自分で言えるようにする。	「おやすみなさい」 ※送迎時、先生、子どもたちとあいさつ交わす温かさ	
小学校	低学年 明るく元気にあいさつができる	【登下校時】 「おはようございます」 「さようなら」 「こんにちは」	・はっきりと聞こえるように言う。	「おはようございます」 「いってきます」 「いただきます」 「ごちそうさま」	登下校時、積極的にあいさつを(地域の人へ・小中学生同士でも)
	中学年 自分から進んで相手を見てあいさつができる	【学校生活】 「こんにちは」 「ありがとう」 「ごめんなさい」	・来校者へあいさつができるようにする。	「おやすみなさい」 「おじゃまします」 「ありがとうございました」	
	高学年 心のこもった気持ちのよいあいさつができる	【職員室など】 「〇年〇組の△△です。 ※先生に用があつてきました。入つてもいいですか。」 「※先生はいらっしゃいますか」 「しつれいしました」	・会釈や立ち止まってあいさつする等も教える。	※朝、昼、晩、元気にあいさつ、習慣に(あいさつは躰)	
中学校	社会人のマナーとしてのあいさつを身につける	【校外学習時】 「お世話になります」 「ありがとうございました」	・あいさつだけでなく返事もできるようにする。	※来校時、先生、子どもと明るいあいさつの交わり合い ※部活動の応援などで、保護者、子どもたち、先生とあいさつ交わり、まとまる心	・尋ねられたら、自分の言葉で、はっきり答える。

ノーテレビ・ノーゲームでふれあう家族の時間

子どもたちは、家族とともに過ごす、うれしいものです。心が安らぎ、明日への活力・意欲もわいてきます。しかし、仕事で忙しかったり、家族といても、ゲームやテレビに時間を奪われ、家族団らんや時間を有効に使うことがなくなっているのも現状です。そこで、家族団らんの時間や、読書や学習等へ自分で時間を有効に活用できるようにノーテレビ・ノーゲームの取り組みを提唱します。

取り組みの方法

原則として、毎週木曜日を「ノーテレビ・ノーゲームの日」としますが、各家庭の実情に合わせ、曜日や時間帯を設定してください。

- (例) わたしの家は、〇曜日の△時からノーテレビ・ノーゲームにします。
- わたしの家は、〇曜日に※時間、ノーテレビ・ノーゲームにします。

	取り組みの例	期待される姿
保育所	いっしょに遊ぶ。 体を使って遊ぶ。 一緒に折り紙などをする。	親子で楽しくなるでしょう。たくさんふれあうことで、やさしく、思いやりのある子に育ってくれるはず。子どもたちが先生になるかもしれません。
	一日の出来事を聞いてあげる。	自分のことが伝えられるお子さんになるでしょう。保育園で楽しかったこと、うれしかったこと、できるようになったこと、たくさん伝わってきます。
	お話を読んであげる	お話が好きな子に、絵本が好きな子になるでしょう。そして、落ち着いてお話が聞ける子に育っていくことでしょう。
小学校	読み聞かせをする。	子どもたちは楽しみにしていることでしょう。たまには、子どもたちが、読むときがあってもいいかもしれませんね。
	親子読書をする。	「どんな本を読んでいるの?」「小学生の時は、こんな本を読んだよ。」「それ、図書館にあるよ。読んでみよう。」などと、会話が弾むかもしれませんね。読書の大切さは、今も昔も変わりません。
	親子でいろんな話をする。 ・学校のこと ・一日の出来事 ・今日のニュース ・自分が子どものころ ・相良村のこと など	楽しいひとときになるでしょう。お子さんの様子がよくわかり、安心につながります。また、村のことに目を向けたり、田植えや稲刈りに興味がわき、家の仕事にも関心が生まれ、お手伝いが増えるかもしれません。お父さん・お母さんへの感謝の気持ちが生まれることもあるでしょう。
中学校	自分で学習に取り組む。	自分から進んで予習や復習に取り組むことで、よく身につくと思います。「一生懸命がんばってたね。」と声をかけてあげれば、うれしいし、また習慣化していくことでしょう。